

40 農業・林業・漁業・手工業等

一地一作人の原則を確立するには十分な耕地が必要。そうでないと小農は名主層の元から独立することができない。幕府は小農民自立政策として新田開発を奨励した。

18世紀初期は大開発の時代。また、土木技術の進歩により、大河川流域や海岸の埋め立てによる新田開発が可能となった。

16世紀末→160万町歩から 18世紀初め→300万町歩

2 農具の改良

POINT

①【**備中鍬**】田畑の荒起こし・深耕用の鍬

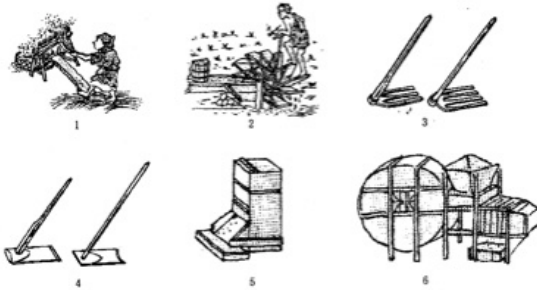
②【**踏車**】揚水・排水に用いる小型の水車

③【**千歯扱**】脱穀用の農具 これは夫を失った後家さんの小遣い稼ぎだった。

元禄の頃に**千歯扱**が登場。扱箸の2～3倍の能率で、これによって後家の小遣い稼ぎができなくなって後家倒しと言われた。

④【**唐箕**】穀粒と不純物を風力でふるいわけする選別用の農具。

⑤【**千石筥**】穀粒の大小を選別する農具



3 金肥の利用と農書の出現

新田が開かれたことで山野が減少し、自給肥料に替わって購入肥料の使用は絶対なものになる。

POINT

①【**干鰯**】鰯を煮て干したもので煮干しである。**商品作物**栽培の拡大とともに干鰯の使用が本格化し、地引網漁などが定着した房総半島の九十九里浜（**鰯漁**）は、その中心的生产地となった。さらに18世紀末ごろから、蝦夷地（**鯨漁**）でも魚肥製造が開始され、西廻り海運ルートを利用して各地に供給された。速効性肥料であり、効果は大きい、大量に施肥できるのは金持ちだけだった。

②【**油粕**】油菜や綿の種などから油を絞った残り。

③【農書の出現】

江戸前期＝「**農業全書**」（宮崎安貞）、江戸後期「**広益国産考**」（大蔵永常）
五穀の栽培が中心。金費をたくさん使えばよくとれるが、それでは赤字になるとし、施肥よりも耕耘や除草の技術を中心に記述している。

4 製塩業・醸造業

POINT

①【**製塩業**】日本では古くから海水を利用して塩が生産されてきた。塩田には、(a)海水を塩田地盤の砂に人力でかけて太陽熱と風で水分を蒸発させる自然浜（揚浜）と、(b)潮の干満差を利用して塩田に海水を引き入れる入浜という二つの方法があり、江戸時代になると、(b)の

入浜塩田が瀬戸内海沿岸部などで発達した。



右記の写真は伯方島の塩ラーメン美味しい！
広島県伯方島



②【**醸造業**】江戸・大阪・京都周辺では、醸造業が発展した。**伏見・灘**の酒、近畿に加え、関東の**野田・銚子**の醤油などが知られている。

幕藩体制下の貨幣流通

初代**後藤庄三郎**は金工匠・後藤徳乗の弟子である。家康の名で、**慶長金銀**を作った。
貨幣の铸造→铸造権は幕府が**独占**、金貨・銀貨・銭貨の三貨体制

金貨	小判・一分銀など	金座（ 後藤庄三郎 ）で铸造	計数 貨幣 (両・分・朱)
銀貨	丁銀・豆板銀	銀座（ 大黒常是 ）で铸造	秤量 貨幣 いびつになる。
銭貨	寛永通宝	銭座で铸造	計数貨幣（貫・文）

両替商

そして①**江戸は金貨**を中心に流通（金遣い）しており、②**上方は銀貨**が流通（銀遣い）していた。銭は全国共通。つまり、金貨と銀貨は現在の円とドルのような関係であった。今でも銀行がドルと円をその時々相場で交換してくれる。当ても一緒。この外国為替を扱うような大銀行を**本両替**という。

両替商は、貨幣流通の促進、公金出納、為替、貸付業務などを行った。大坂の天王寺屋、平野屋、**鴻池**（鴻池は、第十三国立銀行を経て、三和銀行設立の中心となった。現三菱UFJ銀行に合併。等が有名。また、三都で店を展開した**越後屋**が**三井高利**とともに出る。越後屋呉服店の【**現金掛け値なし**】も出た。

金・銀・銭の交換レートは17世紀のはじめ（1609年）に幕府が、**金1両＝銀50匁＝銭4貫文**としたが、「**天下の台所**」とよばれ江戸へ物資を送り込む**大坂**の方が、当然経済力が強く、現実には大坂の本両替の代表（十人両替）が、毎日交換レートを決める**変動相場制**であった。

藩内でのみ通用した**藩札**は、最初が1661年の【**福井**】藩、幕末には**ほとんどの藩が発行**していた。③【**寛永通宝**】銭（1貫=1000文、計数貨幣）は**寛永通宝**が大量に発行され、全国に広く普及した。

近世における金山・銀山・銅山

16世紀、各地に割拠した戦国大名が領国経営の一環として**鉱山開発**に取り組んだため、17世紀初頭の日本は、世界でも有数の金銀産出国になった（金山→**佐渡・伊豆**）銀山→**但馬生野・石見大森**など）ただし、日本の**鉱山**は**鉱脈が豊かでない**ことが多く、17世紀後半になると金銀産出量は急減し、かわって**足尾銅山**（栃木県）・**別子銅山**（愛媛県）などの**鉱山開発**が進められていった。

交通の発達

五街道：幕府直轄で**道中奉行**が管理

街道名	区間	宿場数	人馬の数	関所
東海道	江戸～京都 (または江戸～大坂) (または品川～守口の57宿)	品川～大津の53宿	100人・100疋	箱根 新居
中山道	江戸～草津 板橋～守山まで67宿	50人・50疋		碓氷 木曾福島
甲州道中	江戸～下諏訪	内藤新宿 44宿	25人・25疋	小仏
日光道中	江戸～日光	千住 21宿	25人・25疋	栗橋
奥州道中	江戸～白河	27宿	25人・25疋	栗橋

五街道の起点は⇒**日本橋**である。**一里塚**にはエノキが植えられた。

脇街道

伊勢街道・北国街道・中国街道・長崎街道



伝馬役

幕府や大名の御用通行が最優先され、使用される人馬は、無料あるいは一般の半額程度の賃金で徴発されたのが**伝馬役**。

助郷役

宿駅の伝馬役を補う役割を持った村を**助郷**と呼び、それらの村に課される人馬の徴発を**助郷役**といった。

本陣・脇本陣

2～3里ごとに**宿駅**があり、大名・役人など公的旅行者の泊まる**本陣**や、予備としてこれに次ぐ**脇本陣**があった。一般旅行者は、**旅籠**・**木賃宿**に宿泊した。

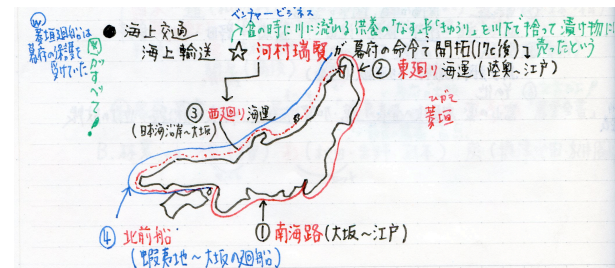
継飛脚…幕府公用、江戸～京都を3日で結ぶ。**大名飛脚**…尾張・紀伊の七里飛脚。

町飛脚…東海道を6日で。

河川舟運

17世紀初め、初期豪商である**角倉了以**が、**賀茂川**・富士川の整備と**高瀬川**等の開削を行った。馬借の仕事が奪われたのは言うまでもない。

17世紀後半、**河村瑞賢**が、東廻り開運・西廻り開運のルートを整備した。河村瑞賢は材木商で、明暦の大火で巨利を得た。またベンチャービジネスの旗手でもある。盆の時に、川に流れる供養の「茄子」や「胡瓜」を川下で拾って漬物にして売ったという。



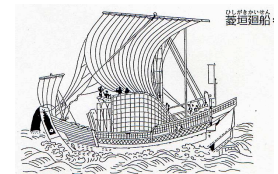
瑞賢は幕府の命令で、幕府直轄地の米を江戸に運ぶため、この航路を整備した。西廻り海運運行以前は、【**敦賀**】【**小浜**】で陸揚げし、琵琶湖を船で運び、【**坂本**】【**大津**】で陸揚げし、京へ運ぶルートがとられていた。琵琶湖沿岸の近江商人が活躍したのは、こうした背景がある。

18世紀末頃から西廻り海運で日本海側【**北前船**】（船主は越前・加賀等の北陸各国に多い）が就航した。

南海路

17世紀後半から大坂の荷積問屋が**菱垣廻船**を使って江戸の荷受問屋に物資を輸送したことに始まる。17世紀末に大坂・江戸の間屋が仲間を結成して【**二十四組問屋**】（大坂）と【**十組問屋**】となり、海難事故の損害負担を協定した。

仲間以外の商人の同行営業を禁ずる独占機能を持ち、その代償として幕府に営業税である【**運上**・**真加**】を納めた。やがて酒を輸送する**樽廻船**が速度の点で菱垣廻船を凌駕する。



満点のコツ 商品の流通を整理する

①藩経由の商品を⇒**蔵物**というが、諸藩で徴収した年貢米（これを**蔵米**という）や特産物は、いったんは大坂にある各藩の⇒**蔵屋敷**に納められる。そして問屋を経由して商品として流通した。蔵屋敷で蔵物の出納や売却管理を扱った商人を⇒**蔵元**といい、売却代金の管理をしたのが⇒**掛屋**である。掛屋には蔵元兼任も多かった。

また江戸で、蔵米取りの**旗本**・**御家人**の代理をして蔵米の取引や金融を扱う商人は⇒**札差**（蔵宿）と呼ばれた。一方、蔵物に対し、蔵屋敷を経由せずに民間の手を経由した物は⇒**納屋物**と呼ばれた。

②流通は、問屋⇒仲買⇒小売⇒消費者